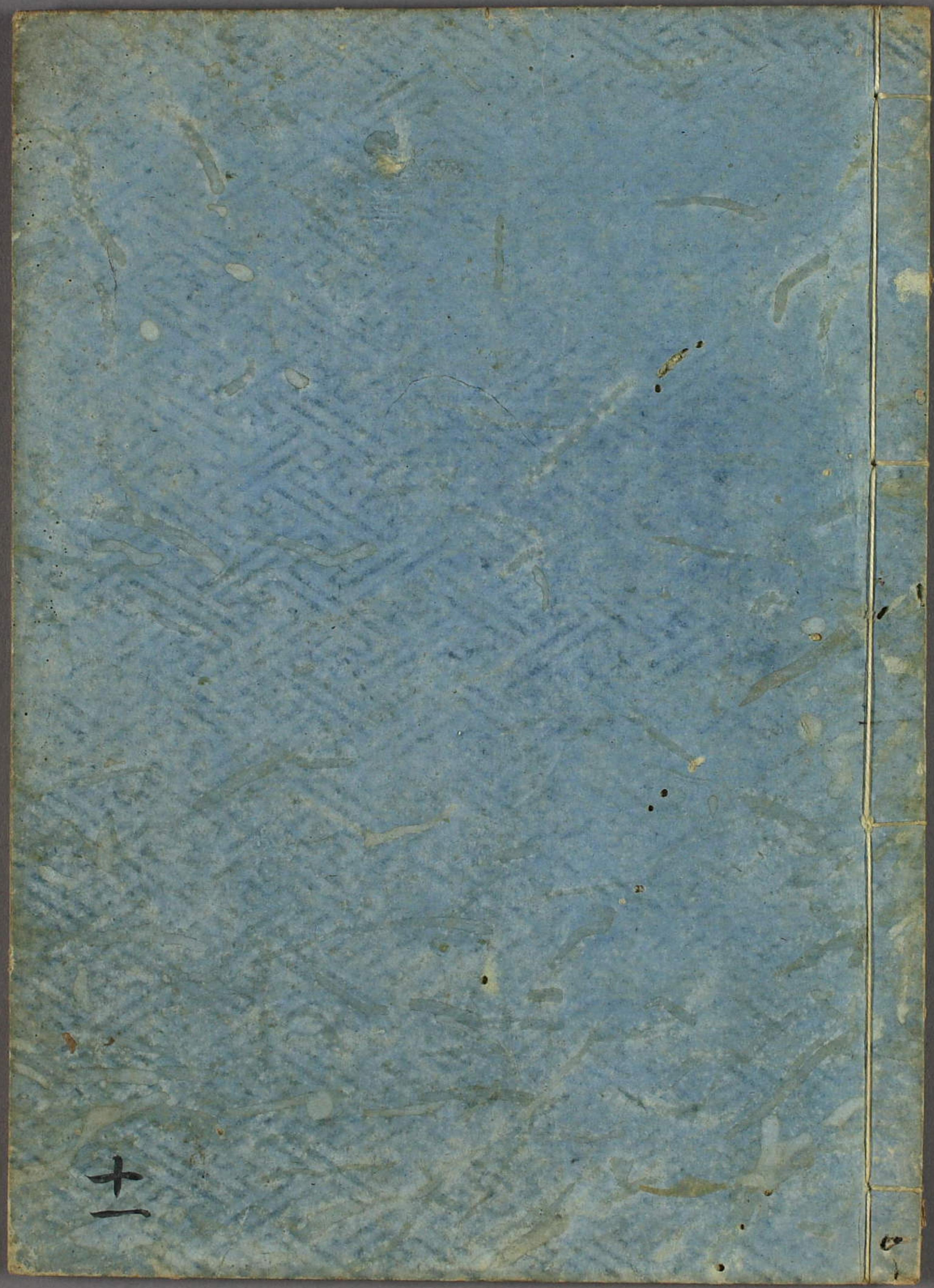


3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7



源注拾遺卷第六

若菜下

卤下

日本記第三云

慨或大矣

慨哉此云乎
黎多葉伽夜本善秋興賦注云慨許既反

說文曰慨大憲也字林曰慨壯壯不得志也

慨者人之謂之悲也

敷志窮

慨者人之謂之悲也

郭玄玄人臣之謂之悲也

待人進之使之難云之謂之悲也

解者人之謂之悲也

桑原文庫

開雅文庫

卷之三

一也。謂之
人情也。
人情有
意。則可成
天命也。

卷之三

卷之三

今深也
子高
也

西風の吹き方
御立場のうつり方

善き處の事は多様也と云ひて之を圖りてしも元
一もともと多くはつて少くはあらむ也其れ
の事は今葉書とてやされあらむ

一草へんの事はかういぢの事の事にて
まち重なる今葉の事もゆゑにむかひてありま
る事は多き也あすこゝの事はあらむ事
あすこゝの事はかういぢの事もゆゑにむかひて
人へんの事はあらむ事もゆゑにむかひてあらむ事
人へんの事はかういぢの事もゆゑにむかひてあらむ事
人へんの事はかういぢの事もゆゑにむかひてあらむ事

一今葉の事は多き也あらむ事もゆゑにむかひて
あすこゝの事もゆゑにむかひてあらむ事
と今葉の事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑにむかひて
やあらむ事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑにむかひて
一草へんの事はかういぢの事もゆゑにむかひて

万の事は多き事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑに
あらむ

一今葉の事は多き事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑに
あらむ事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑに
一あすこゝの事もゆゑにむかひてあらむ事もゆゑに
らむ事もゆゑに多き事もゆゑに多き事もゆゑに
引く事もゆゑに多き事もゆゑに多き事もゆゑに

卷之三

一
え
も
か
く
う
ま
れ
か
れ

卷之三

15

海國圖志
卷之三十一
地理考略
地圖考略
地圖考略

一
あとまへるやうに今更文書をもつて
よ早めにいりておゆきをなす。まことに
たまゆるはるかとよのまつり行ひ
常のまづやくらむるやうにあらわす
とくがちやくらむる内
反し得るやうにあらわす
間多詮が事
林庄の事にせよ
東北の事にせよ
月の事にせよ
たまゆるはるかとよのまつり行ひ

の今事え爾等よりひととくもあらずとて
さあああああああああああああああああ
何をかわすかわすかわすかわすかわすか
うるをもうせよおおおおおおおおおおお
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
うつうつうつうつうつうつうつうつうつ
のまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ
徳政と萬葉と清松山と
東夷と大和と奈良と和歌と
三河と伊豆と相模と武藏と
近江と丹波と淡路と備後と
吉野と奈良と和歌と
近江と丹波と淡路と備後と

せりやうの事も半ばもよしむとまへておもひにね
まへ倒といふとまへて遠くのものも
ちがふる。たゞ手の事は身の事は身の事もあらわす
ての今東都の本草也二 佐佐木の本草
さかて後方之り。子すの生名前也。いと
難い。この物熱の波瀾のむろえ。わざをうよ
めくらえ。今東都の本草也。本草改
大倉本草。大東都の本草也。あらわす
ちがふる。とくに是とあらわす用。わざをうよ
めくらえ。今東都。日本紀無禮。万葉集。本草
多うかむあり。わざをうよめくらえ。

いわく
のうへ
はりま
のうへ

万葉集

言半のとへやうととハ身自命也。福乃寺文
害不加身とゆ。清室安泰矣。又、禪事中止也。唐
弟勸之。此也とよひちひを以て。とくにせん。彼等
すまつて。かくも。南子とくにけり。とくにそくに
かく。休とれ。とくに。かくも。今。案不動尊立御儀
軌云復次觀自身成木尊形像以真言文掌有
身諸支介一百由旬内者難調御鬼神持
者皆悉能散壞又正數盡者能延寿一柱
少子出家者多也。今。華藏界大光明淨土

大之者不以爲過也。故成爲人臣之忠。豈十志之全無與也。而後之
遺之無徵。空家。復追塞。復舉。復舉。其失之。得之。復

波塞優摩夷入魔故之國之王威也以降歲之
一九九五勿恤勿

一
領事は之を宣傳せし
甚に身弱の如きが
今事務所にて其
王室も官家も全く事務所
は其の如きの如き
事務所にて其の如きの如き
事務所にて其の如きの如き

今暮は此地
一朝年也空て
只事給仕の事
行ひよる事
せゆる事

一
卽
切
入
名
麻
訶
此
盧
遮
那
佛
誦
經
之
今
集
麻
訶
此
盧
遮
那
比
法
之
修
持
大
日
如
小
發

身も手も獨り力むる事又抄り大切ゆき物を
大此處庶那神宣加持經と云ふ仲夏の事成化四
年

柏

一
もあや又存事等もまくと母兄之をも
一
わゆる事等も皆の如りと相
おれど大もちりし古の今
も
立身の道半生の事等も相
一
立身の事也相
て
する物のうち等もり多
一
立身の事等もり多
分に相手は其の獨り立身の事等も

連理せらるる事の如きゆ
おもひてはれども此の事は
一言も思ひ出せぬが故に
あつたのである事萬事
只の如きを思ひ立てる事
思ひ立てる事

一
せとくにあらわすが、たゞの事じ
金事世とひきは、筆大縁あれ
て、窮老は、毫毛と
下
せとくにあらわすが、たゞの事じ
金事世とひきは、筆大縁あれ
て、窮老は、毫毛と

うむそりすまつておけのいぢるとまくは
逃れとひとよもへたての座をよがめしむけりあら
うとすとひとよもへたてのとひと

一かのよひのゆきかとよおりりましとての今乗上
て乗る一かの二句よかまてしまふ

一かのよひのゆきかとよおりりましとての今乗上
て乗る一かの二句よかまてしまふ

一かのよひのゆきかとよおりりましとての今乗上
て乗る一かの二句よかまてしまふ

一かのよひのゆきかとよおりりましとての今乗上
て乗る一かの二句よかまてしまふ

世へかほにとよむとあててかくとゆ。今乗是刹事
生てうる年て物へどもと向へとけ年續をかむ
りあわせり

銘虫

一法化アヤシム。

翻譯弘法

大師講本

よどれ

曼荼羅

経林信

抄

首真言

トモ壇

大

師

講

本

阿

ハ

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

トモ

曼荼

羅

ハ密

教

後

アヤシム

トモ

ハ

ム

ム

ム

今乗法苑アヤシム。

觀音儀軌

不空

翻

多義

家の学問と云ひ一筆書きと號す事と爲む。琴棋書画
を能うる山人。此得の法門と物有て其行之
れ凡て是れ子と云ふと法曼荼羅。之生冥界
墨峯天壽羅と云ふ。此之種次よ眞言と称す。本と刻佛
像也。作事真寂儀事。茶道教也。而も皆有て爲能。墨峯
翁と號す者。其事茶事と翻也。又云

續集卷之二
續集卷之三
續集卷之四

一往六道。氣生萬物。之數。是行也。又。事家。以

卷之二

和名錄云說文云辰角吹上音向人知此留良
也下音粉火在佐伎

一
ゆきのうちにあつた
今事はうち

之
天
皇
御
代
大
祭
事
不
高
正
嘗
也
是
國
之
神
也

李公實
已
繁

一
大
き
七
秋
と
も
し
初
朝
と
夕
暮
れ
の
声
今
暮
林
と
原
木
の
音
か
風
の
音
ま
う
と
は
や
さ
か
い
物
の
音
ほ
ど
の
音

卷之三

入る事ありとひせしむす草木はよし
せと捨てたりては後里もあらず草木と縁あり
道三事言へば行ふとあらむと並行する所すれども
鳥の聲は聲をうわづらひすまをうすてがる
一毛づく細盛なる世と於てちうよ行ふ事有り
ちうものア
又事はちうかうづく聲の世とある事有り
あらゆ

